



三小だより

武蔵村山市立第三小学校 令和6年 11月号 10月31日発行

教育目標

- よく考える子
- ◎ なかよくする子
- 元気で明るい子
- カいっぱいがんばる子



見方を変えれば、「人」も「まち」も違って見えてくる！！

校長 佐々木 琢

先日、市内小学校の社会科の研究授業に参加した際、ゲストティーチャーとして招聘した方の言葉がとても印象的でした。その方は、市内で「へら絞り」という金属加工技術の工場の社長を務められている方でした。仕事の中で工夫していること、努力していること、製品への想いなど、子供たちの質問に対して丁寧に答えてくださっていたのですが、最後に、武蔵村山への想いを話してくださいました。

その話の中で印象に残った言葉とは、「武蔵村山ならではの何かを見つけてみよう」という子供たちへのメッセージでした。それは、他の地域にあって武蔵村山にないものもあるけれど、実は武蔵村山にしかないものもたくさん見つけることができるという趣旨でした。

それは、人であり、物であり、こと（取組）であると考えます。武蔵村山の地域の人材、武蔵村山の様々な施設や生産物、

そして武蔵村山の地域の活動や取組。

見方を変えると、身近にある当たり前の存在であった武蔵村山の「人・もの・こと」のそれぞれの良さに気付くことができるのです。

それは、子供たちのもつ、一人一人の個性にも当てはまるものと考えます。子供のできていないことではなく、努力していることや目指していること。さらには、子供のもち味などに目を向けてみる事が大切であると考えます。

11月は、ふれあい月間です。子供たちが自分の生活を振り返り、人とのかわり方を見直す機会となります。

当然、一緒に生活していけば互いの気持ちや考えのすれ違いが生じるものです。そんな時、その友達の良さを見付けたり、話を聴いたりすることで、人とのかわり方を振り返り、改善を図っていくことが大切です。一人一人の子供の良さに目を向け、改善を図る機会にしていきたいと思います。

武蔵村山ならではの「みかん狩り」！！

